



公益社団法人
宮城県芸術協会
(郵便番号 980-0802)
仙台市青葉区二日町16-1
二日町東急ビル5-B
電話 (022) 261-7055
FAX (022) 214-5184
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
発行者 雫石隆子

昭和40年1月創刊された「はなやま」の題号は、芸術協会の創設が、昭和39年5月9日に宮城県花山村(現栗原市花山)の湖畔亭で開かれた会合で決まったことにちなんで付けられました。

令和元年度定時総会 事業報告と収支決算承認 新時代、課題克服の弾みに

令和元年度の宮城県芸術協会定時総会は6月8日、仙台市青葉区の市福祉プラザで開かれた。元号が改まって初めての総会。組織の維持・発展と、取り組みの一層の活発化に向けて、情報共有の促進と組織力強化へ



の決意を新たにした。

総会には1299人が出席(委任状1206通を含む)。司会の吉田利弘執行理事が総会成立の条件を満たしていることを確認、報告した後、雫石隆子理事長があいさつ。「会員の高齢化や会員数の減少など、協会を取り巻く環境は一段と厳しさを増し、平成30年度の収支決算も赤字に落ち込んだ」と難しい課題を抱える協会の現状に触れた上で、「芸術祭の共催団体に仙台市民文化事業団の参画が決定、河北新報社との連携公募展開催に向けた協議も進んでいる」と、未来につながる胎動を紹介し、令和の新時代を迎えて

着実に発展する大いなる可能性を強調した。

続いて、文芸部の金澤孝一会員を議長に選出。次第に沿って、議事等の審議を進めた。報告は「2019年度事業計画

公益財団法人仙台市民文化事業団の大越裕光理事長が6月8日、仙台市青葉区の市福祉プラザで開かれた令和元年度の定時総会に先立って記念講演を行った。



**未来開く
鍵は連携**
新時代の文化芸術振興
大越氏、記念講演で強調

総会への参加を促し、研修の機会にも位置付けられる恒例の企画。今回は本年度、新たに宮城県芸術祭の主催団体に加わることになった市民文化事業団の大越理事長を講師に迎えた。

及び収支予算について」の1件で、佐藤皖山、菅原宗初両執行理事が分担して内容を説明。定款に基づいて前年度末の理事会で承認されていることを報告した。議案は「平成30年度事業報告及び収支決算の承認について」の1件。理事長と、佐々木光一、渡部勝彦両執行理事が事業と決算に分けて説明し、岡本勝監事が適正に執行されている旨、監査報告を行った。報告、議案とも異論はなく、

了承、承認された。本年度の総会は、厳しい現状に対する「不安」と、新たな動きを背景とする先行きへの「希望」が交錯する中で開かれた。現実を直視し、懸念を取り除きつつ、期待感を膨らませる取り組みを推進する必要がある。定款に掲げた「宮城県における芸術文化の振興発展に寄与する」との目的の実現に向けて、なお一層の協会及び会員一人一人の本気度が問われる局面と受け止めたい。

講演の演題は「新時代の文化芸術振興」。大越理事長は事業団の概要を紹介した後、人口をはじめとする各種統計データや国の芸術文化関連政策に触れつつ、これからの文化芸術振興について見解を述べた。

必要性を強調した。特に、目的を同じくする機関・団体同士の緊密化は振興促進の成否を左右する要素との考えをにじませた。文化芸術の振興を使命とし、課題と誠実に向き合う事業団。当協会と目指す方向に大きな違いはないだけに、連携の強化は成果を生むための基盤形成の鍵を握る。レジュメや講演資料を確認しながら、熱心にメモを取る会員も目立ち、今後の対応の在り方について、認識を深める得難い機会となったようだ。

を増やす中、文化芸術をどう発展させ、次代に引き継いでいくかが、わたしたちに課された命題。関連機関などによる連携は対応の重要なキーワードになる」と、産官学民の関係強化の

大越理事長は仙台市出身。東北大卒業後、仙台市役所入り。市教育長などを歴任、昨年4月、事業団理事長に就任した。

宮城県芸術祭の準備本格化
「結び」第3弾に知恵結集 令和の新時代念頭に

第56回宮城県芸術祭で実施す

るテーマイベントの内容が固まった。既に申し合わせている統一テーマ「結び〜次代へ〜」を踏まえ、佐藤皖山執行理事(事業担当)を中心に、各部の参加希望を踏まえたコラボレーション型事業を追求。7月8日の部長会議で概要を説明した。昨年、市民らから高い評価を受けた芸術祭を彩る定番的な企画。協会内部の準備も加速し、期待感も

高まり始めている。

令和元年の宮城県芸術祭は華道、書道展を皮切りに、仙台市青葉区のせんだいメディアテークで9月20日開幕。統一テーマイベントの特別企画は同一階のオープンスクエアで、21日にリハーサル、22日本番の日程で開催される。

肝心の内容については、令和への改元を「新時代の到来」ととらえ、結び合い、連携し合い

ながら、時代を開き、次代に引き継ぐイメージで構想。二部構成、二時間以内を目標に組み立てていく。

第一部、邦楽部(長唄)と華道部、工芸部、さらに書道部、文芸部、写真部の共演、第二部は洋楽部と舞踊部(洋舞)がコラボし、総合芸術の素晴らしさを披露する。

第一部は令和の新たな時代を祝うことをテーマに設定。万葉・令和讃歌を主題とし、令和表記の源である万葉を前面に、悠久の時の流れを「次代」への希望として表現する。第二部は「次

代」を担う子どもたちが躍動。洋舞を学ぶ子どもたちが洋楽の生演奏で舞うなど、継承の願いと喜びを込める。こういった内容をベースに、細部を調整し、肉付けしていった計画を練り上げていくことになる。

統一テーマイベントは、芸術祭への関心を高める呼び物の企画。コラボ芸術の舞台は幅広い分野で構成される当協会の持ち味が最も発揮される発表機会でもある。各部が「無償の精神」で役割を担い合って、予算をはじめとする厳しい制約を乗り越え、最高の見せ場を演出しよう。

いて出席者が自己紹介をした後、吉田利弘執行理事が映像を流しながら、基幹事業の宮城県芸術祭を中心に協会の活動を紹介した。

ら、絆を深める機会づくりの検討を進め、今回、初めての懇談会開催となった。

手探りで始めた新規事業に賛助会員19人が出席。常任理事会メンバーらと懇親を深めた。

懇談会は菅原宗初執行理事を進行役に、



冒頭、栗石隆子理事長が謝恩と意見拝聴の意図を込めたあいさつを行った。続

た提案があった。また、当協会の置かれた状況を踏まえて企画の意図を付度、賛助会員の一人が「開催の狙いは、お金を集めること。さらなる資金の提供に協力してください」と、同席会員に呼び掛ける一幕もあった。懇談会は和やかな雰囲気が進

み、複数の出席者が「どのような協力をできるか考えてみたい」と述べるなど、賛助会員によるさらなる支援策検討への期待感を高めた。

工芸部、芸術祭で「工夫」
昨年の特別企画&工芸展の成果生かす

工芸部は本年度の県芸術祭で、会場の一角に、「秋の日の一部屋」をテーマとしたコーナーを設け、日々の生活を彩る作品を展示する。幅広い分野で構成される部の特性を生かしたアイデア。「暮らしと工芸」を切り口にした、従来の展示とは一味違った趣のある工芸空間が関心を呼びそうだ。

企画案の構想は昨年度の芸術祭がきっかけ。各部が連携した特別企画で使用する作品群を、工芸展でコーナーを設けて一足早く披露したところ、穏やかな雰囲気醸し出し、入場者や会員らから好評を博した。部内の会議等で、工芸展の可能性を開き、部の先行きにも一石を投じる新たな試みとして評価する意見が相次ぎ、本年度、取り組みの継続、発展を図ることになった。芸術作品に加えて、生活に彩りを添える小品を展示し、作り手と使い手の心をつなぐ、もう一つの表情を演出する仕掛けは魅力的。工夫を凝らした新機軸は話題性もあり、市民らが足を運ぶ契機にもなりそう。

協力の絆深める
懇談会

賛助会員招き「感謝の集い」

初の試み、和やかに

当協会が賛助会員を招いて関係強化を図り、支援の継続につなげる懇談会が5月22日、仙台

市青葉区のホテル法華クラブ仙台で開かれた。賛助会員との距離を縮め、長期にわたるお付き合いをいただくことを目的に初めて実施した「感謝の集い」。参加者から「ぜひ例会に」と懇談会の定例化を求める提案もあり、意義深い試みとなった。

ここ数年、当協会の働き掛け

もあって、賛助会員は増加傾向をたどっている。ただ、一方的に「お願いする」だけでは、協会の存在や活動に対する真の理解の促進につながらず、支援の継続性にも危うさを伴うことか

第46回研修旅行

今秋はベトナムへ

フエの世界遺産など視察

注目のエリア、今後の試金石に

本年度の研修旅行先がベトナムに決定。世界遺産の宝庫、ナン、フエを訪ねる。魅力満載で多くの参加を期待している。

日程は11月13～17日の4泊5日。韓国・ソウル経由（アジアナ航空）でダナン入り。世界遺産ミーソン遺跡観光、世界遺産

令和初の芸文協総会開催

東北・北海道芸術文化団体協議会の令和元年度総会が6月13日、福島市のコラッセふくしまで開催された。



関心を集めた交流写真展。右端は説明する吉田利弘執行理事。

古都・ホイアン観光を楽しむ。さらに専用バスでベトナム初の

世界遺産フエへ。阮朝王宮、太和殿、カイティン帝廟なども視察する。料理も多彩なメニューを用意。歴史的に縁の深いフランス料理のほか、海鮮料理、中華料理を味わえる。旅費は191,950円(空港税等含む)。

46回目となる研修旅行だが、海外旅行の普及などに伴って、参加者を募る難しさが増している。近年、その数は減少傾向にあり、27年度のタイ、ミャンマー

は10人とどまった。

研修旅行は単なる物見遊山ではなく、部を超えた幅広い会員との交流により、創作活動への刺激と会員同士の親睦を図る重要な意味合いを持つ。ただ、開始当初の思いを大事にしながら

も、一度立ち止まり、廃止・休止も含めて、その在り方を議論する必要があるとの指摘もある。人気エリアを視察地とする。今秋の企画は今後を占う試金石になりそうだ。募集は25名。詳しくはチラシ参照。

昨年引き続き福島県芸術文化団体連合会が担当となり、平成30年度事業・収支決算報告、令和元年度事業計画・収支予算(案)、機関紙「北斗」のテーマを承認。今年交流事業として「東北・北海道交流写真展」を開催、古里の風土と文化を紹介した。

スケッチ研修会有意義に

5月18、19日の一泊二日の日程で、毎年恒例の絵画部スケッチ研修会が行われた。

今年の研修地は岩手県遠野市ふるさと村から望む早池峰山と宮古市浄土ヶ浜。ゆったりと時



間をとったスケッチの後には作品鑑賞会が行われ、活発な意見が交わされた。参加者数は27名で盛況だった。

追悼 書道の発展に貢献

山崎晁秋先生 アリガトウ

名誉会員(書道部) 菊田 翠谷



平成11年 6月、友好 中国吉林省 長春在の吉 大友(青陵)さんと3人でお

林省博物館で開催された「宮城県書道展」にご一緒し、成功裡に帰国したときのこと。 お互い無理せず(コロナバぬう) 長生きしましょう。 そう言っておられた先生が、程なくして奥さまの元に。

揺れないのネ 人生のはかなさ、無常迅速。

思わず耳を疑いました。まさか初搭乗でもありますまいに。 思えば先生と世代を共にしたと、まこと無上のものでした。 人生情有り 涙臆を沾す 杜甫 お別れ。揺れる仙石線。おまけに踰踰う足。先生ゴメンネ。

吉林省では、会期中に今後の交流について協議。後に副知事 山崎先生は5月23日、黄泉の国に旅立たれました。91歳。名古屋市出身。長年、書道に打ち込み、協会では書道部主任、社団法人当時、常任理事、参事を務め、平成25年から名誉会員。

展覧会は、かつて日本語教育を受けられた故老の方々が多く見えられ、「読めた、読める」と懐かしんでくださり、また、漢字が片仮名、ひらがなに転移、文字文化の素晴らしさを称えて

文字文化の素晴らしさを称えて 長を歴任、19年から特別顧問。書道界をけん引し続けた半生で 謹んでご冥福をお祈りいたします。

誌上座談会、執行理事ら大いに語る

現執行部がスタートして1年、折り返し点を過ぎた。「宮城県
の芸術文化の振興発展に寄与する」との定款に掲げた目的の達成
に向けて、栗石隆子理事長と吉田利弘、佐々木光一、佐藤皖山、
菅原宗初、渡部勝彦の各執行理事が前半の歩みを総括した。誌上
座談会を通じて当協会の抱える課題が鮮明となり、一方で解決へ
の力強い模索が始まっている。組織運営が年々、難しさを増して
いる今、会員も現状認識を共有し、残る任期、築かれつつある打
開の糸口をたぐり試行を重ねながら、責任の完遂を誓う執行部の
決意に伝えたい。

―皆さま、任期中半を振り返っていかがですか。

栗石 今更ながら、責任の重さを痛感しています。執行理事としての経験からも財務の立て直し、賛助会員の拡大路線を継承してきましたが、一年かけて事業や収支の実像をはっきりと把握できてきたところです。

吉田 担当職務の全うへ、努力することで精いっぱいでした。これまででは所属部門の運営だけに関心を持ち、協会の全体像が見えていなかったことを実感しました。協会運営の良さも課題も見えつつあるのが現状です。
佐々木 事業、財務の両方を経験し、現在、再び事業を担当しています。執行部の仕事は「会員拡大と財源確保」に尽きると考えていますが、高齢化が進む

中で会員の減少傾向に歯止めをかける困難さを感じています。

佐藤 自宅が登米市で、文化3団体の副会長も務めており、本業と芸協の会議が重な



左から栗石理事長、菅原、佐藤両執行理事

課題鮮明、布石は着々

ることもあって時間の配分が大変でした。任期中半、何を為すべきかを念頭に入れ、協会発展の一翼を担いたいと考えています。

菅原 担当の財務内容の把握に必死で、振り返ればあつという間。不安を感じながらの就任でしたが、何事もできることは果敢に実行し、不慣れな面は協力、助言をいただきながら、誠実に職務を遂行してきたつもり

です。

渡部 執行理事になって3期目（5年目）になりますが、年々、その役割の重さと対応の難しさが増ってきている印象です。

―思い描いていた協会運営ほどの程度できていますか。

栗石 私も長く執行部に携わってきましたが、理事長の立場で芸協運営することの難しさを思い知りました。継続への一石として日頃の支援に感謝する「賛助会員の集い」を開催できたのは喜びで、事務局との意思疎通強化の大切さも感じています。

吉田 それぞれの部門が充実と発展に励んでいることは思い描いてきた通りでした。そのこと

に対し、協会全体としてどのように対応していけばよいのか、確かな姿勢を明示しなければならぬとの思いを深めています。

佐々木 会員の減少防止をどうするかが問題だと思っていますが、高齢化という抗い難い壁があり、正直、十分な手立てを講じ切れていません。若手の勧誘に努めてはいるのですが。

佐藤 財源不足が歯がゆくて、行政との共同事業を増やしたり、文化、芸術施策の拡充を図って、宮城がこの分野の旗頭になるような勢いが欲しい。他県と同等の予算を確保できれば、よりスケールの大きな催事ができます。

菅原 協会運営の役に立っているのか、自らに問い掛けることもしばしばです。思索を深めて、もつと踏み込んだ取り組みができるよう、手立ての構築に努めていきたいと思っています。

渡部 これまでの経験から、理解していたことはいえ、意思疎通にはいきません。問題意識の共有と徹底した議論の下で対応策を協議する、その重要性を

強く感じています。

―協会の維持・発展に向けて、抱える課題をどう認識し、いかに対応されるつもりですか。

栗石 総会のあいさつでも、安定的な運営に向けた基盤づくりの重要性について述べましたが、執行部が一丸となるのはもとより、各部門、会員が共通認識を持つことが欠かせません。あらゆる機会にご理解とご協力をお願いしてまいります。

吉田 職務を通じて知ったこととして衝撃的だったのは、「マナス決算」が続いてきたこと。この事実を全ての部門、会員と共有し、会員や賛助会員を募る努力を続ける一方、事業等の在り方についての見直しを図っていかねければと考えています。

佐々木 会員の維持・拡大を抜きの、協会の未来は描けず、そのためには魅力ある協会づくりが必須です。質の高い作品を発表し、県民・市民の評価を高めることが必要で、会員一人一人が誇りを持って活動することも会員拡大の原動力になります。

佐藤 素晴らしい作品の展示や質の高い演奏、舞台の創出が根本になければ、人の心をつかめませんし、会員も増えないでしょう。発表機会の拡充、創造こそが執行部の大きな役割では

ないか。そんな思いでいます。
菅原 会員減少、高齢化、財源確保が課題と認識しています。それぞれが絡み合い、対応は容易ではありませんが、知恵を出し合い、芸術の素晴らしさを広く訴え、協会のありがたみを増すような取り組みを進めていきたいと考えています。

渡部 減少傾向にある会員の維持・拡大と事業内容の質の向上が最重要課題と認識しています。協会の存在感を高め、賛助会員の増加にもつながるようなインパクトのあるレベルの高い事業が展開できるような工夫が大切だと思います。

— 芸術祭の共催団体拡大、連携公募展の開催準備等、将来につながる動きもありましたが…。

栗石 共催団体の負担金は東日本大震災以降、減ってきており、その分、協会の持ち出しが増えています。芸術祭の先行きを考えた時、共催団体の拡大は重要です。連携公募展は身の丈を考慮しつつ、芸術のあすに関わる試みとして前向きに取り組んでいきます。

吉田 関連団体と連携の輪を広げることは、芸術祭への関心を高め、芸術文化の拡大と啓発につながるものと考えます。連携公募展は当該の写真、工芸両



左から渡部、佐々木、吉田の各執行理事

認識共有、飛躍後押し

部の充実・発展に資するはずですが、ただ、協会全体で事業のスクラップ&

ビルドの考え方も加味していく必要があります。

佐々木 共催の拡大は、運営基盤の強化につながり、大歓迎です。河北新報社との連携公募展も、大いなるチャンスと受け止めています。対応次第で、評価の高い公募展に育て上げていけると信じています。

佐藤 (公財) 仙台市市民文化事業団が共催団体に加わってもいい、大変心強く思っています。公募展は徹底的に経費を抑制して、協会の負担、重荷にならないよう留意するべきです。

菅原 協会の知名度を高め、活動の充実を図るために、喜ばしいことと受け止めています。公募展は当該部門、そして協会全体の活動意欲が増す事業として成長してほしいと望んでいます。

渡部 共催の拡大は、今後の協会発展への大きなステップになると思います。連携公募展も期待していますが、覚悟とアイデアが必要です。協会全体の了解と支援を得られるよう、開放的な運営に心掛けるとともに、負担の増加等に鑑みて成果の最大化を図るため、事業内容は十分

に検討されるべきでしょう。

— 監査報告で財務状況の改善、会員増加策の検討など3点、対応を求める指摘がありましたか…。

栗石 協会の厳しい現状に対する共通認識を持つことは当然であり、財務状況に関する踏み込んだ提言もありがたく、重く受け止めています。新しい部門の検討や賛助会員の継続、拡大にも取り組んでまいります。

吉田 真摯に受け止めねばならないと考えています。
佐々木 全く異論はありません。

菅原 問題意識は私自身と共通しており、重要な指摘だと認識しています。

渡部 いずれも、もつともな指摘で、重く受け止めています。— いずれも共感されているようですが、どう対応されますか。

栗石 安定した運営基盤を築くため、新分野の開拓は既に模索を始めています。会員獲得、若者への接近としての公募展、ワークショップ等の拡大も図ってまいります。財務対策では、事業ごとのピアリングを実施し予算の精査を促すほか、参加費等の見直しもあっているのでは。

吉田 すぐにも着手すべきです。現況理解は不十分で、まずは各部が認識を共有するた

除の制度を生かせるよう、手続きも進めたいと思います。
菅原 真剣に取り組んでいきたいと考えています。

渡部 できることから常任理事会の議題とし、積極的に対応していくべきだと思います。

— 残る任期1年に臨む決意を。
栗石 「芸術振興基金」の創設、「賛助会員の集い」の継続、連携公募展の具体化に取り組みます。執行部内、事務局との協調を一層進めて、ガバナンスを確かにしたいと考えています。

吉田 これまで述べてきたことを組上に載せ、課題解決の道を探り、具体的方策に結び付けていきたいと思っています。
佐々木 会員が世界に羽ばたけるような環境の整備、その道筋づくりを努めたい。

佐藤 5年後、10年後を見据えて、何を為すべきか模索していく覚悟です。

菅原 連携事業の充実した運営を図るため、会員の協力をいたさながら、残り任期、職務に精励していきます。

渡部 執行理事が誠実に協力し合えば、必ず良い結果を導けると信じています。先述の諸課題を含め、執行部が心一つに全力で取り組むたいと考えています。
 — ありがとうございます。

平成30年度正味財産増減計算書 [決算]

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

科目	公益目的事業会計					収益事業等会計	法人会計	合計
	公1	公2	公3	公益共通	公益小計			
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
基本財産運用益	0	0	0	1,000	1,000	0	0	1,000
受取入金	0	0	0	930,000	930,000	0	930,000	1,860,000
受取会費	0	0	0	12,810,000	12,810,000	2,678,543	7,821,457	23,310,000
事業収益	6,755,050	116,000	1,390,000	0	8,261,050	3,646,000	0	11,907,050
受取補助金等	200,000	0	200,000	0	400,000	0	0	400,000
受取負担金	12,595,750	0	0	0	12,595,750	0	0	12,595,750
受取寄付金	138,000	0	0	0	138,000	0	0	138,000
雑収益	291,000	0	0	4,499	295,499	0	0	295,499
経常収益計	19,979,800	116,000	1,590,000	13,745,499	35,431,299	6,324,543	8,751,457	50,507,299
(2) 経常費用								
事業費	30,153,081	2,907,092	5,185,304	110,000	38,355,477	6,286,043	0	44,641,520
管理費	0	0	0	0	0	0	7,810,477	7,810,477
経常費用計	30,153,081	2,907,092	5,185,304	110,000	38,355,477	6,286,043	7,810,477	52,451,997
当期経常増減額	△10,173,281	△2,791,092	△3,595,304	13,635,499	△2,924,178	38,500	940,980	△1,944,698
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	9,995,072	2,791,092	3,570,104	△15,415,288	940,980	0	△940,980	0
当期一般正味財産増減額	△178,209	0	△25,200	△1,779,789	△1,983,198	38,500	0	△1,944,698
一般正味財産期首残高	1,027,572	0	25,200	42,016,766	43,069,538	14,000	0	43,083,538
一般正味財産期末残高	849,363	0	0	40,236,977	41,086,340	52,500	0	41,138,840
II 指定正味財産増減の部								
一般指定財産への振替額	30,000	0	0	0	30,000	0	0	30,000
当期指定正味財産増減額	△30,000	0	0	0	△30,000	0	0	△30,000
指定正味財産期首残高	130,000	0	0	0	130,000	0	0	130,000
指定正味財産期末残高	100,000	0	0	0	100,000	0	0	100,000
III 正味財産期末残高	949,363	0	0	40,236,977	41,186,340	52,500	0	41,238,840

a : 公益目的事業経常費用計	b : 当年度年間全体経常費用	公益目的事業比率 (a / b)
38,355,477	52,451,997	73%



加者でにぎわった。

象条件の中、トラブルもなく、昨年にも迫る8500人ほどの参加者でにぎわった。

伝統文化の茶の湯に気軽に親しむ機会としてすっかり定着。改元直後を意識し、12の流派が「令和仕様」にしたてられた野点の舞台で、心づくしのお点前を披露した。26日に真夏日を記録するなど、季節外れの暑すぎる気象条件の中、トラブルもなく、昨年にも迫る8500人ほどの参加者でにぎわった。

当協会と河北新報社が主催する「第23回社の都大茶会」が5月25、26の両日、仙台市青葉区の勾当台公園で開かれた。盛夏を思わせる天候の下、参加した市民らが茶道を通じた「おもてなしの世界」を楽しんだ。

令和に刻むおもてなし
第23回社の都大茶会
真夏日乗り越え盛会に

平成30年度事業報告

(1) 宮城県芸術祭の開催【公益目的事業1】 *第55回統一テーマ「結びII」

Table with 6 columns: 事業種別, 事業名, 期日, 会場, 入場者数, 作品点数・出演者等. Rows include 芸術祭全体, 展示関係事業, 演奏関係事業, 文芸関係事業, 茶会, 人材育成事業.

(2) 芸術文化の振興に関する展覧会、講演会、研究会、発表会などの主催又は後援【公益目的事業2】

Table with 6 columns: 事業種別, 事業名, 期日, 会場, 入場者数, 作品点数・出演者等. Rows include 鑑賞機会提供事業, 伝統文化体験事業, 人材育成事業, 後援事業.

(3) 国内及び国外との芸術文化の交流【公益目的事業3】

Table with 6 columns: 事業種別, 事業名, 期日, 会場, 入場者数, 作品点数・出演者等. Rows include 東北・北海道芸術文化団体協議会交流事業, 仙台・大邱国際芸術交流事業.

(4) 会員の資質向上のための研修会等の実施及び調査研究並びに出版物の刊行など【他事業】

Table with 6 columns: 事業種別, 事業名, 期日, 会場, 入場者数, 備考. Rows include 会員研修, 発行.

事務局日誌

会務報告

【監事会】4月15日
・平成30年度事業報告及び会計監査

【第1回理事会】4月19日
・平成30年度事業報告及び収支決算の承認について
・2019年度定時総会の開催について

・正会員の入会承認について
・賛助会員の推薦について
【定時総会】6月8日
・平成30年度事業報告及び収支決算の承認について

【第56回宮城県芸術祭委員会】6月17日
・第56回宮城県芸術祭について

【第1回部長会議】7月8日
・第56回宮城県芸術祭について
・各部の運営について

後援

☆美里工芸作家グループ展
5月18〜26日
美里町近代文学館

☆腎臓移植45年加納鳴鳳書展
6月27〜30日
大崎市民ギャラリー

8月17〜20日
三陸河北新報社かほくホール

令和2年1月24〜29日
せんだいメディアアテーク

☆第29回宮城示現会展
7月12〜17日
せんだいメディアアテーク

☆第55回宮城水彩展「栗原展」
7月12〜18日
栗原文化会館

☆第50回蔵王写生会展

7月12〜17日
せんだいメディアアテーク

8月23〜29日
石巻市ナリサワギャラリー

☆第38回板橋健独唱会「声による表現の可能性を求めて」
7月18日
仙台市戦災復興記念館

☆第42回仙台の四季を描く絵画展
7月26〜31日
せんだいメディアアテーク

☆第65回全国公募画南書道展
7月26〜31日
せんだいメディアアテーク

☆第47回宮城二紀展
7月26〜31日
せんだいメディアアテーク

☆一般社団法人二科会写真部第26回宮城支部写真展
8月2〜7日
せんだいメディアアテーク

☆第63回筆祭り恵風書道展
8月2〜7日
せんだいメディアアテーク

☆第50回仙台市民川柳大会
8月6日
エル・パーク仙台

☆中村敦子リサイクル
8月7日
宮城野区文化センター

☆玄穹社門展併催第11回玄穹社学生展
8月9〜12日
せんだいメディアアテーク

☆第47回宮城野書道展
8月9〜13日
せんだいメディアアテーク

☆宮城野書人会学生書道展
8月16〜21日
せんだいメディアアテーク

☆2019年洋会東北支部展
8月30日〜9月4日

せんだいメディアアテーク
☆チルコロ・マンドリニスティコ・フローラ第54回定期演奏会
9月1日
日立システムズホール仙台

☆仙台音楽弦団 松尾英紀楽器製作45周年記念
9月1日
仙台市戦災復興記念館

☆第66回河北書道展
9月1〜8日
TFUギャラリーミニモリ

☆第2回蒼原社現代書展
9月6〜11日
せんだいメディアアテーク

公演「メリー・ウイドウ」
9月28・29日
東京エレクトロンホール宮城

会員の入賞・入選など

◇第3回新日春展

▽入選 天笠慶子、安藤瑠史子、石川浩、奥山和子、七宮牧子、及川尚子、桶谷光代、佐々木志津子、鈴木多恵子

◇アートオリンピック2019

▽入選 佐藤光郎

受贈書

『句集 黒潮の沖』(相内をさむ)、『歌集 残灯』(原田夏子)、『歌集 孀恋』(原田千乃)、『詩集 旅人』(佐藤達男氏)家族様

謹弔

書道部 小野寺修芳 殿

書道部 釜村清鳳 殿

茶道部 (玉川遠州流) 松田晋禮 殿

文芸部 (詩) 佐藤達男 殿

華道部 (小原流) 小川爽琳 殿

書道部 山崎晁秋 殿

絵画部 (洋画) 菊地義彦 殿

茶道部 (煎茶文雅静庵流) 加藤静秋 殿

写真部 大内四郎 殿

絵画部 (洋画) 白崎康夫 殿

けやきの譜

第56回宮城県芸術祭が9月に開幕する。本年度から新たに(公財)仙台市民文化事業団が共

催しに加わり、より多くの方々に参加が見込まれる。遠く花火の音に誘われ、庭先でシュルシュル、パンとねずみ花火が弾ける。チリちりと火の花を咲かせた線香花火が、真つ赤な球をぼたりと落して消える。そんな昔日の光景を思い出した。8月は原爆忌。梯久美子の『原民喜』で原の次の句を読んだ。「炎の樹雷雨の空に舞ひ上がる」。広島で被爆、奇跡的に生き残った原民喜の生涯は、妻の死という哀しみを抱えて余りにも寂しい。原爆がなければこの悲劇は生まれなかった。世界の指導者は、核兵器を自国の欲の実現のための脅し道具として使い続けている。が、その欲は決して庶民のものではない。世界69カ国が署名している「核兵器禁止条約」に、唯一の被爆国日本はアメリカに気を遣い見送っている。署名を拒みながら核廃絶を口に信は置けない。(英)